

# Glocal Tenri



月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.19 No.2 February 2018

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

2

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
「大きなたすけ」の句が到来  
／高見宇造..... 1
  - ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」  
的世界観への未来像～ (46)  
第6章 吉本隆明と『思想のアンソロジー』⑤  
／井上昭夫..... 2
  - ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道  
の様相 (14)  
戦前のハワイ伝道と日系移民社会④  
／尾上貴行..... 3
  - ・ 「おふでさき」の標的用法 (30)  
動詞について⑯  
／深谷耕治..... 4
  - ・ 伝道と翻訳 ―受容と変容の“はざま”で―(9)  
宗教言語の翻訳②  
／成田道広..... 5
  - ・ 現代世界に生きる「人間」と「宗教」―再考― (2)  
人間はどこまで動物か①  
／岡田正彦..... 6
  - ・ 遺跡からのメッセージ (31)  
イスラエルの遺跡調査⑯ 初期シナゴグ  
の類例を訪ねる冬の旅  
／桑原久男..... 7
  - ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関  
係試論 (15)  
植民地社会の同化と抵抗①  
／森 洋明..... 8
  - ・ 天理参考館から (13)  
成年にイヌについて考える  
／幡鎌真理..... 9
  - ・ ヴァチカン便り (30)  
速度を落とす教会改革  
／山口英雄..... 10
  - ・ 思案・試案・私案  
“お・も・て・な・し”？  
／八木三郎..... 11
  - ・ 思案・試案・私案  
天理市街地のイチョウ並木について思う  
こと  
／佐藤孝則..... 12
  - ・ 図書紹介 (102)  
『ロンドン日本人村を作った男』  
／尾上貴行..... 13
  - ・ English Summary..... 14
  - ・ おやさと研究所ニュース..... 15
- 新企画のお知らせ／天理セミナー第5  
回研究会に参加 (澤井治郎)／『グロー  
カル天理』年間購読のご案内／『グロー  
カル天理』合本のご案内／研究所ホーム  
ページのご案内／「出前教学講座」申  
し込み受付  
／平成29年度「教学と現代」／平成30  
年度公開教学講座

## 巻頭言

### 「大きなたすけ」の句が到来

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

昨年は画期的な年となったと言っても過言ではない。「新しい社会的養育ビジョン」のことである。虐待を受けた子どもや、実の親が育てられない子どもを含め、すべての子どもの育ちを保障するとして、一昨年5月に児童福祉法が改正され、「子どもは権利の主体」であることが確認された。また家庭養育優先の理念を規定し、実親による養育が困難であれば、里親による養育を推進することとした。この法改正を具体化するため、昨年8月に厚生労働省はこのビジョンを発表したのである。これは、わが国の社会的養育史上画期的なこととなった。同ビジョンでは大きな数値目標を設定している。まず里親への包括的支援体制の抜本的強化を打ち出した。特に数値目標については愛着形成に最も重要な時期である3歳未満児については概ね5年以内、それ以外の就学前の子どもについては概ね7年以内に、それぞれ里親への委託率75%以上を実現するとして。また学童期以降は、概ね10年以内を目途に里親委託率50%以上の実現を掲げている。果たしてこの数値目標は実現可能なのか、という強い声が関係者から上がっている。ちなみに平成27年度末の里親委託率は全年齢で17.5%であるから、いかに国は大きな舵取りをしたかが分かる。

厚生労働省は「極めて高い数値目標を掲げたが、里親支援体制を最大限努力せよという行政のメッセージ」だと国民の理解を求めているが、家庭養護促進協会は「血のつながらない子どものすさまじい試し行動に耐えてくれるような、信頼できる里親の申し込み者は本当に少ない」と所感を述べ、数値目標だけでなく、質の担保が重要との認識を示した。筆者も全く同感である。

ところで申すまでもなく、天理教信者はこれまで、この分野で多大の献身をしてきた。天理教里親連盟(昭和57年結成)によれば、平成29年度現在で全国の養育里親登録者数は8,445名であるが、

内天理教の里親(以後、天理)は347名で、その比率は4.1%、虐待や非行、障害などにより専門的な養育が求められる専門里親については全国では684名、内天理は99名で14.5%を占めている。また実際に里子を受託している養育里親数については全国が3,043名、内天理は226名で約7.4%になる。専門里親の場合は全国で176名、内天理が86名と実に約48.9%になる。一方で天理教の里親が受託している里子の数は養育里親が全体の9.4%、専門里親では実に全体の64.7%になる。天理教信仰者の里親が我が国の社会的養育の大切な一翼を担っていると言っても決して過言ではない。

天理教の里親はその数値的評価に止まるものではない。「人の子を預かって育てやる程の大きなたすけはない」(『稿本天理教教祖伝逸話篇』86話)という教祖の言葉を心の拠り所とし、自ら「私たちお道の里親は、教祖の御教えに基づき、誠真実をもって、子どもの養育にあたります」という信条を掲げている。また同連盟は「『大きなたすけ』を世界へ広めよう―ようばく家庭が社会的養護の担い手に―」と各地で里親活動への啓発に取り組んでいる。今こうした新ビジョンを聞くにつけ、誠に尊い信仰者の行いであると感じる。

第60回全国里親大会(平成27年)において厚生労働省大臣表彰を受けた里親は「私の信ずる神は、神が人間を創造するときに、人間は互いにたすけ合って、この世の中を明るく楽しくするために人間を創造したと教えられ、それが私のあたりまえという信条でございます。その信条に向かって、私はやらせていただいておりますから、決して自分が特別なことをしているとは思っておりません。」と謝辞を述べ、全国の里親から共感する拍手が湧き起こった。里親の啓発と共に「大きなたすけ」と言われた教祖の言葉もまた世の中に問い掛けなければならない。